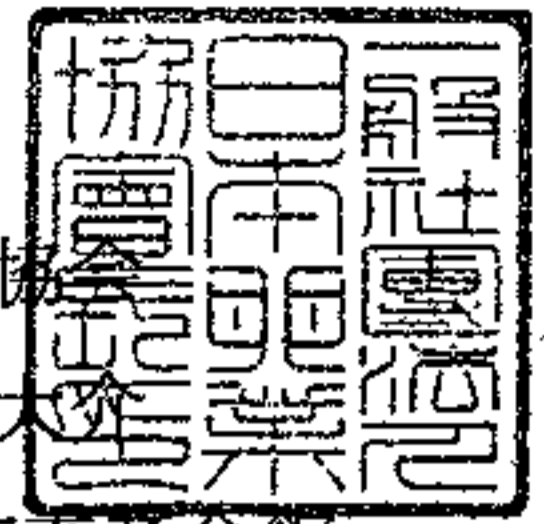


2021年2月8日

株式会社講談社  
週刊現代 編集責任者様



一般社団法人日本卵業協会

会長 米山 大樹

東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館

TEL 03-3297-5553

FAX 03-3297-5554

E-mail aei05725@nifty.com

御社本年2月13日号掲載「大反響第2弾 日本のタマゴはこんなに危ない」に抗議します。

1. 「廃鶏を150羽ほど解剖調査したところ9割以上に子宮や卵巣の疾患があった。」

通常では考えられないかなり異常な事態だと思います。読者は日本の養鶏場はみなこうだと誤解する恐れがあります。いつ、どこの養鶏場のお話かをお知らせください。

2. 「鶏舎の中にはネズミやダニも多く、疾病が蔓延しないように採卵鶏は育成段階で大量の抗生物質が与えられている。」

育成段階で抗生物質が与えられる場合は法律による使用制限を守っております。大量という表現は読者に不要な不安を与えます。何を根拠に大量というのかをお知らせください。

3. 賞味期限の偽装

賞味期限を偽装していると書かれていますがどこの業者が偽装をしていたのでしょうか。読者は日本の卵の賞味期限がみな偽装されていると誤解する恐れがあります。いつ、どこのお話かをお知らせください。

前回分を含め本特集は全体的に日本の卵の危険性をあおり、鶏卵に携わる我々協会員の販売活動を妨害するものです。これ以上日本の卵を確たる根拠なく貶めることがないよう強く抗議するとともに、上記1～3に対する速やかな回答をお願いします。

以上

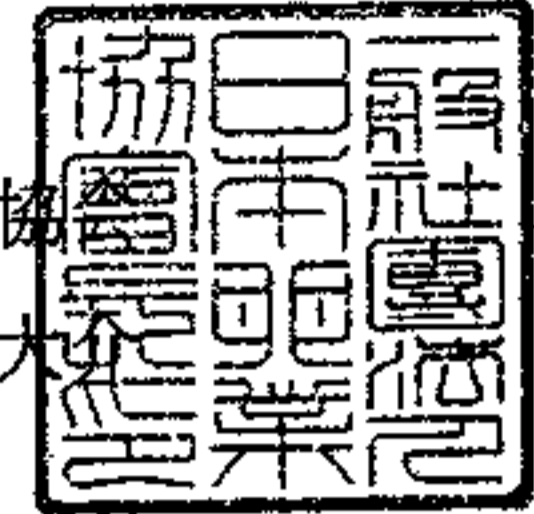
2021年2月17日

株式会社講談社

代表取締役社長 野間省伸 殿

(一社) 日本卵業協

会長 米山大



当社2月8日付抗議文の回答を同月15日郵便にて受領いたしました。質問3問中2問が取材源秘匿の為回答不可、1問は問題を投げかけるための内容とのことでした。当協会としてはこれらの回答では到底納得することは出来ません。

にも拘らず貴社は2月20日号「大反響第3弾 特売のたまごを買ってはいけない」「生卵なんて食べてはいけない」を発売し、再三にわたって国内鶏卵に対する不安をあり、当協会員の鶏卵販売を妨害しております。

特に賞味期限に関しては家庭用鶏卵の生食賞味期限は産卵日から21日以内で設定するという業界ルールがあり、それに則って運営されています。もし偽装が行われているなら監督官庁とも協議し厳重なる対応を取らなければなりませんので取材源は公表していただきたいのです。

抗生物質についても消費者の健康にもかかわりかねない問題であり、確たる裏付けなしに記事にするのはあまりにも無責任ではないでしょうか。

一連の特集は問題提起というよりはたまごに携わる者への悪意に満ち、当協会員の名誉を著しく傷つけるものです。あらためて強く抗議するとともに、今後同種の記事を掲載する場合は具体的根拠に基づき、取材源もオープンにさせていただくよう強く要求いたします。

以上